

名古屋港管理組合に申し入れ(9月13日)

南極観測船・砕氷艦「しらせ」が入港 9/30・10/1に一般公開。軍事利用にくみするな

海上自衛隊に所属

海上自衛隊の南極観測船・砕氷船「しらせ」が、9月29日に名古屋港に入港、9月30日と10月1日には一般公開が行われます。日本共産党名古屋市議団は9月13日、南極観測船としての意義や南極条約の周知などを求め、自衛隊の募集や宣伝などに利用させないよう管理組合に申し入れました。今回の入港では、8月に横転事故を起こした艦載機（ヘリコプターCH-101）の発着訓練も計画されています。

「しらせ」は、文部科学省国立極地研究所の南極地域観測隊の輸送・研究任務のために建造された南極観測船で、建造費は文部科学省の予算から支出、艦の運用は海上自衛隊が行っている。文部科学省では「しら



十三日に名港管理組合に申し入れ、山口清明・高橋ゆうすけ・西山あさみ議員

せ」を「南極観測船」と呼んでいます。防衛省では「砕氷艦」と呼んでいます。

しらせ艦載機の事故を報じる中日新聞(2017年8月18日)



海自ヘリ横転4人搬送
岩国航空基地で訓練中、17日午後、西交差、山口清市の海上自衛隊岩国航空基地で、機を降りて乗員を乗せたCH-101が、地すべりによって横転し、機上乗員4人が搬送された。2人が行方不明とされている。



砕氷艦「しらせ」(海上自衛隊のHPより)

砕氷艦「しらせ」の要目

就役・母港	2009年5月 横須賀
建造費	376億円
基準排水量	12,650ト
主要寸法	長さ138m・幅28m・深さ15.9m・喫水9.2m
主機関	ディーゼル・推進電動機4基 2軸
馬力・速力	30,000馬力 19kt
乗員	約175名 うち観測隊員等約80名
兵装等	ヘリコプターCH-101 2機、64式7.62mm小銃等

【砕氷のしくみ】

- ・連続砕氷・・・氷厚約1.5mまでの氷は、強力な推進力で連続的に砕氷して前進。
- ・ラミング(チャージング)砕氷・・・氷厚約1.5m以上の氷は、いったん200~300m後退、最大馬力で前進し、氷に体当たりして氷に乗り上げ、艦の自重で氷を砕く。

名古屋港管理組合
管理者 河村たかし様

2017年9月13日
日本共産党名古屋市議員団
団長 田口一登

南極観測船・砕氷艦「しらせ」の名古屋港入港について

南極観測船・砕氷艦「しらせ」(12,650トン)が9月29日から10月2日までの日程で名古屋港に寄港し30日と1日の2日間はガーデンふ頭での一般公開を予定している。

海上自衛隊に所属する「しらせ」の今回の寄港と一般公開は、名古屋港管理組合による名古屋港開港110周年行事の一環であると同時に、海上自衛隊の発表によれば、航空機発着艦訓練を含む総合訓練を行いながらの寄港でもある。

8月17日には「しらせ」艦載機のヘリコプターCH-101が海上自衛隊岩国航空基地で訓練中に横転する事故を起こした。安全管理に万全を期すことが求められる。

南極観測は、地球環境の保全と自然科学の発展にとって意義ある事業であり、名古屋港においても南極観測船

「ふじ」を博物館として活用している。1961年に結ばれた南極条約は、科学的調査の自由と国際協力の促進、南極地域の平和的利用(軍事基地・軍事演習の禁止)、領土権の凍結、すべての核爆発と放射性物質の処分の禁止などをうたっている。

南極観測船・砕氷艦「しらせ」の名古屋港への寄港と一般公開にあたっては、自衛隊の隊員募集や宣伝業務などに岸壁を使用させることがないようにするとともに、この機会をとらえて南極条約の周知をはかるなど、名古屋港開港110周年記念事業の一環にふさわしく国際協力の促進と平和に貢献する行事となるように取り組まれることを強く要請する。